

令和8年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立三瀬中学校

4月から5月にかけて、文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童・生徒の学力や学習の状況を把握・分析し、教育の改善を図るとともに、児童・生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校生徒の学力と学習状況の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

調査期日

令和8年4月23日（木）

(注)中学校英語及び質問調査については、オンライン方式（CBT方式）のため、調査日を分散して実施

調査の対象学年

中学校第3学年

調査の内容

(1) 教科に関する調査

国語、数学、英語（英語は一人一台端末を用いたCBT方式）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。
- ② 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。
調査問題では、上記①と②を一体的に問うている。

(2) 質問調査（1人1台端末を用いたCBT方式）

児童生徒に対する質問	学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査
学校に対する質問	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

教科に関する調査結果及び考察について

- ・ 全国学力・学習状況調査は、小学6年生及び中学3年生を対象に、国語、算数・数学、英語について実施されています。
- ・ また、調査問題は、各教科の一部の内容について出題されているものであり、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり、「学校教育活動の一側面」です。
したがって、調査結果を見る際には、この点をご理解いただいた上で、ご覧ください。
- ・ 中学校英語のみ「IRTスコア」による公表です。

【参考】

- IRTとは、項目反応理論（Item Response Theory）と呼ばれる統計理論のことで、生徒の正答・誤答が、問題の特性（難易度、測定精度）によるのか、生徒の学力によるのかを区別して分析し、生徒の学力スコアを推定することができる。
- IRTでは、これまでのように、同一の問題セットを生徒が一斉に解答し、その正答数によって正答率を算出する調査とは異なり、複数の問題セットが用意され、個々の生徒が異なる問題セットを解答しても、生徒の学力スコアを推定することができる。
- 各学校や自治体に提供されるIRTスコアは、500を基準にしたスコアで示される。

調査結果及び考察

質問調査

佐賀市学校教育ビジョンに関わる設問より（キーワード：自律・尊重・創造・主体性・当事者意識）

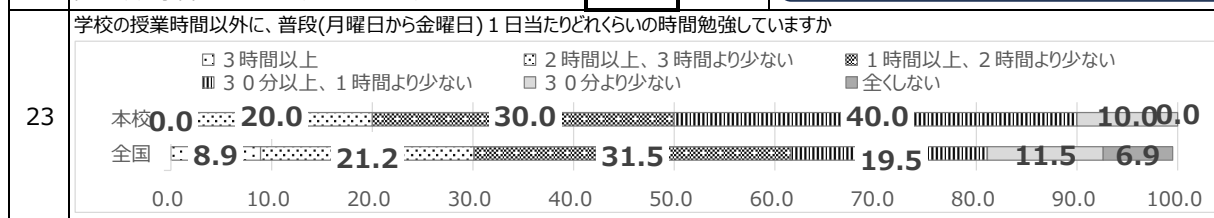
《質問領域：主体的・対話的で深い学び》

（注）数値は「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」等、肯定的な回答の割合（％）

質問番号	質問事項	本校（％）	全国（％）
39	前年度までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた	90.0	78.8
42	学級の友達と間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている	100.0	87.0
46	授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる	100.0	92.4

《質問領域：主体的な学習の調整、学習習慣》

22	分からないことやよく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか	0.0	78.2
43	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか	0.0	79.0



本校の調査結果 ※◎（強み）、●（課題）

◎友達と話し合って考えを深めたり、互いに「協力して課題解決に取り組んだりする姿勢が非常に優れています。

●わからない時の学びの工夫や、学習内容の振り返りを次の学習につなげる力に課題が見られます。

●自宅での学習時間の確保や、日々の自主的な学習リズムを作ることが今後の課題です。

《質問領域：自己肯定感、幸福感 等》

8	自分には、よいところがあると思う	90.0	84.0
10	将来の夢や目標を持っている	90.0	67.6
15	学校に行くのは楽しいと思う	100.0	85.4
21	普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか	90.0	91.0

《質問領域：向社会性》

14	人の役に立つ人間になりたいと思いますか	100.0	95.9
33	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う	90.0	72.3

本校の調査結果 ※◎（強み）、●課題

◎「自分には、よいところがあると思う」、「将来の夢や目標を持っている」の数値が全国平均を大きく上回っており、子供たちが自分の長所を肯定的にとらえ、前向きな将来像を描けていることが伺えます。

◎自分自身だけでなく、周囲の人間関係や地域社会へ目を向け、貢献しようとする利他的な意識や主体性がしっかりととらえられていることが読み取れます。

調査結果を受けて

【学校では】

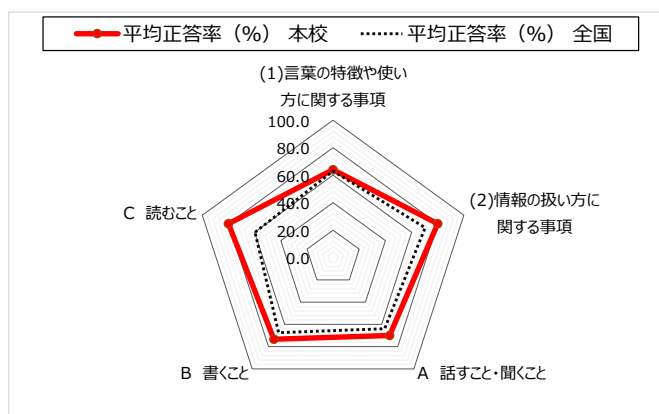
- 生徒一人ひとりが「わかった」「もっと知りたい」と実感できるような授業を展開し、授業内での学びを確実に自分のものにする指導をさらに充実させます。
- ただ宿題をこなすだけでなく、自分に「必要な家庭学習（予習・復習や苦手克服）の進め方について、具体的にアドバイスや指導を行います。

【ご家庭では】

- 「毎日机に向かう時間」を決めたり、学校から帰った後の過ごし方のルーティンを見直したりするなど、家でも計画的に学習する習慣づけへのサポートをお願いいたします。
- スマホやゲーム、SNSの利用時間についてご家庭でルールを再確認し、生活リズムや学習時間が削られてしまわないよう、適切な見守りや声掛けをお願いします。

《学習指導要領の内容別 平均正答率》

学習指導要領の内容		平均正答率 (%)	
		本校	全国
知識及び技能	(1)言葉の特徴や使いに関する事項	64.0	63.0
	(2)情報の扱いに関する事項	80.0	70.4
思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	70.0	63.9
	B 書くこと	73.3	67.4
	C 読むこと	80.0	59.7



《問題形式別 平均正答率》

問題形式	平均正答率 (%)	
	本校	全国
選択式	82.2	72.7
短答式	53.3	55.8
記述式	56.7	45.5

結果 ※◎ (強み)、●課題

◎物語や説明的な文章の中から、著者の主張や登場人物の気持ちの変化などを探し出し、基本的な情報を正しく読み取る力はしっかりと身についている。選択式の問題や指定された範囲から根拠を見つける設問では、多くの生徒が安定した成果を出している。

●複数の資料やグラフから読み取れる傾向を比較したり、自分の意見をその理由をわかりやすく筋道立ててまとめた文章（記述式）で書いたりする問題において、表現に迷ったり、説明が十分でなかったりする傾向が見られる。

《正答率の高い問題》【強み】

問題番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)	
		本校	全国
4 三	目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈することができるかどうかをみる	100.0	68.7
4 四	文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすることができるかどうかをみる	60.0	38.9

《正答率の低い問題》【課題】

問題番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)	
		本校	全国
3 一	文脈に即して正しく漢字を書き、語句を文章の中で使うことができるかどうかをみる	40.0	39.8
4 二	語句の辞書的な意味を踏まえ、文脈上の意味を捉えることができるかどうかをみる	20.0	35.2

調査結果を受けて

【学校では】

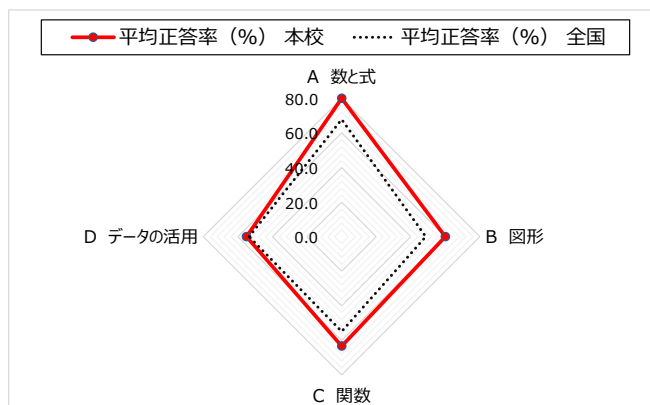
- 授業の中で、自分の意見をノートに書くだけでなく、友だちと意見を交換したり、お互いの文章の良いところを確認し合ったりする活動を増やします。
- 「なぜそう考えたのか」「本文のどこに書いてあるか」という根拠をセットで考え、論理的に説明・記述する力をすべての教科の基盤として系統的に指導します。

【ご家庭では】

- 家庭の会話の中でも、「今日のニュースについてどう思う？」「それはなぜ？」など、自分の考えに理由を添えて話す機会をぜひ作ってみてください。
- 日記や感想文、レポートなどを書く際に、「はじめ・なか・おわり」の構成や、接続詞（「なぜなら」「しかし」など）を意識して書くよう声をかけてみてください。

《学習指導要領の内容別 平均正答率》

学習指導要領の内容	平均正答率 (%)	
	本校	全国
A 数と式	80.0	67.8
B 図形	60.0	48.7
C 関数	63.3	54.8
D データの活用	55.0	53.5



《問題形式別 平均正答率》

問題形式	平均正答率 (%)	
	本校	全国
選択式	63.3	59.3
短答式	74.4	64.2
記述式	47.5	39.1

結果 ※◎ (強み)、●課題

◎ 正負の計算、文字式や方程式の解き方、基本的な用語・公式を活用する「知識・技能」の領域において、しっかりと成果が出ています。基本的な定義に基づいた数理的な処理は概ね定着しています。

● 身の回りの事象を数学的に解釈し、その過程や結論の理由を筋道立てて記述・説明する問題（「思考・判断・表現」を問う記述式）において、記述の組み立てに苦戦する傾向が見られます。複数の条件を組み合わせる論理的に立式・証明する場面に課題

《正答率の高い問題》【強み】

問題番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)	
		本校	全国
3	2 直線が平行になるための条件を理解しているかどうかをみる	80.0	49.1
9 (2)	箱ひげ図と四分位数の対応について理解しているかどうかをみる	90.0	75.8

《正答率の低い問題》【課題】

問題番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)	
		本校	全国
5	起こり得る場合を樹形図や二次元の表を利用するなどして整理し、確率を求めることができるかどうかをみる	40.0	60.2
7 (2)	数学的に表現したことを事象に即して解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる	30.0	33.9

調査結果を受けて

【学校では】

- 授業の中で、単に答えを出すだけでなく、「なぜその式になるのか」「どのような性質を用いたのか」を言葉や数式でノートに記述させ、互いに説明し合う活動を取り入れます。
- 長文の条件設定やグラフ、表が絡む問題（C領域・活用）に対し、不要な情報と必要な情報を整理し、既習の数学の知識をどのように選択して使えばよいか、思考の筋道をスモールステップで指導します。

【ご家庭では】

- 家庭学習で問題演習を行う際、答えの数字だけを合わせるのではなく、途中式や思考のプロセスを丁寧にノートに書き残すよう見守ってください。
- 間違えた問題について、「どこでつまづいたか」「どの公式・性質を使うべきだったか」を自分で簡単に説明できるようにする（解法の再現性を高める）復習を意識させてみてください。

中学校英語の結果は、正答数だけでなく問題の難易度も考慮した「IRTスコア」で示されています。

《平均IRTスコア》

本校	504
全国	499

《技能別平均正答数》

	聞くこと	読むこと・書くこと	話すこと
本校	1.3 / 2	2.8 / 5	0.8 / 2
全国	1.2 / 2	2.5 / 5	0.7 / 2

※「読むこと」と「書くこと」は、国から提供される結果では一つの区分として示されています。

《強みが見られた問題》

問題 番号	技能	出題の趣旨
1 6	話すこと〔発表〕	日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある内容を話すことができるかどうかをみる
1 2	書くこと	日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができるかどうかをみる

《課題が見られた問題》

問題 番号	技能	出題の趣旨
1 5 (2)	話すこと〔やり取り〕	音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、話すことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けているかどうかをみる
1 3	書くこと	日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができるかどうかをみる

結果 ※◎（強み）、●課題

- ◎日常生活や個人の思い出、身近なトピック（例：「留学生と一緒にしたいこと」の口頭発表や、個人の思い出を振り返るライティングなど）において、自分の考えや気持ちを整理し、まとまりのある内容として伝える力がしっかりと備わっています。リスニング（聞くこと）の基本的な情報キャッチも概ね良好です。
- 電話のやり取りにおけるトラブルや具体的な要望の伝達など、条件が加わる複雑なコミュニケーション場面や、インターネット等からの情報を読み解いて思考を伴うライティング（記述）においてやや苦戦する傾向が見られます。特に口頭では言える内容であっても、それを「論理的な英文として記述・構成する力」にこれからの伸びしろがあります。

調査結果を受けて

【学校では】

- 単に単語や文法を覚えるだけでなく、「自分の意見とその理由」をセットで論理的に英文で書く活動を授業内に定期的かつ系統的に取り入れます。また、お互いの文章を確認し合う時間を増やし、構成力を高めます。
- 「話すこと」「聞くこと」において、定型的な発表だけでなく、制限やトラブル状況の設定があるなど、より現実的で複雑な条件を伴う対話の練習を授業に取り入れます。

【ご家庭では】

- 家庭での学習や振り返りの際に、「I like ~ because ~（～が好き、なぜなら…）」といったように、自分の「意見に理由を付け加えて書く・話す」機会を大切にしてみてください。
- 自宅での予習・復習の際、ただテキストを目で追うだけでなく、音声教材（リスニング）を積極的に活用し、音声から素早く情報を掴むトレーニングを行うよう声をかけてみてください。